大阪の社會福祉

発行所
大阪市社会福祉協議会
大阪市天王寺区東高津町８番地
（大阪市社会福祉会館内）
直通電話（768）2876
編集・発行人　渡　清孝
毎月１回１日発行　定価10円〒50円

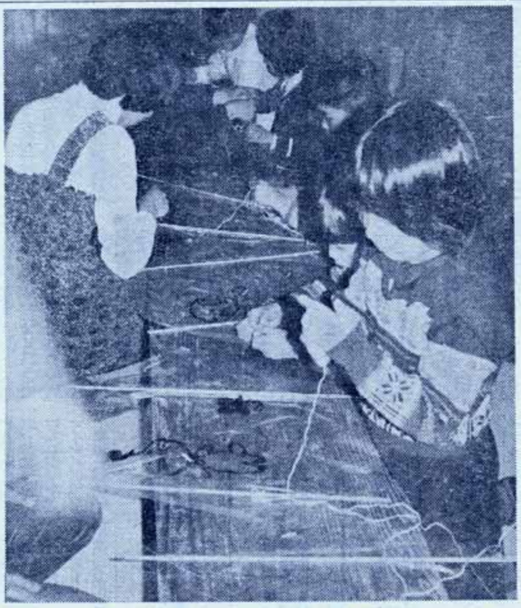
本号の内容

300号発行記念座談会……2～3面
スウェーデンの老人福祉……2面
児童行政30年の宿題……4面
「人」西明半蔵（101）……〃
わが町（住吉区長居）㊾……〃

大阪市単位子供会実態調査

ほしい"リーダー"

大阪市教育委員会と、大阪市子供会連合協議会（市子連）により、昨年大阪市内の単位子供会実態調査が行われた。子ども会数は昭和三十一年八〇単位会、三十八年五百九単位会、四十三年には七百八十三単位会であったのが、今回の調査では千三百三十三単位会となっている。市子連でも、社会教育の推進を目的として掲げるようになった三十八年以後に七割の単位子ども会が成立している。単位会の規模としては、五十一～八十人が二四・四%で最も多く、ついで百一～二百人となっている。平均は一単位会百十二・五人。この点大阪市内の子ども会は、規模が過大になっているものがかなり多い。以下、活動内容を中心に記載。


ジュニアリーダーの指導でたこづくり（東高津少年友交会）

子ども会の目的としては、子どもの仲間づくりが四五・二%とトップで、冒険の機会をつくる二一・〇%、家庭や学校でやれないことを経験させる一〇・七%、非行の防止一〇・三%、心身をきたえる九・五%、あそびの機会をつくる八・一%とつづいている。

府下の子ども会の調査では、自主的に生活する態度が身につくよりも、冒険の機会をつくるははるかに少なかった。

このデータの差異は、大阪市内の子ども会の場合、府下に比べて男性の指導者が多いことも関係していると考えられる。

自主・自立に関する項目の選択が意外に少ないことは、子ども独自の組織の形成が乏しいことを反映している。

子どもの活動内容についての結果では、ソフトボール大会が六七・六%で最も多く、キックベースボール大会が四九・五%でこれに次いでいる。この二つは、市子供会連合協議会で毎年のように実施されているものであり、それが単位会活動に影響を及ぼしているのであろう。

その他、ハイキングが四七・二%、水泳・海遊び三二・七%、キャンプ二〇・六%と、野外活動に力を注いでいる子ども会が多い。身体活動以外の活動については、まだまだ工夫の余地があり、とくに地域活動や文化創造活動の不足がめだっている。

年間プログラムを持たない子ども会が三〇・〇%もあり、必ずしも組織的、計画的に活動しているとはいえない子ども会が少なくない。

活動の企画にあたる者についての調査結果では、育成者（大人）だけでが四七・一%と最も多く、リーダー（中学生・高校生）だけの〇・三%、リーダーと育成者の七・六%を加えると過半数の会で子ども会員抜きの企画となり、子どもの自治活動の指導援助というリーダーなり、育成者なりの役割とのずれが見られる。

子どもが会長にも班長にもなっていない会では、育成者が六四・五%と多くなる。子どもが班長のみになっている会でも育成者が三八・三%と多い。会長に子どもがなっているでは、子どもとリーダーと育成者で一八・一%、子どもと育成者で四四・四%である。

"人的条件"で悩み
半分が子どもぬきの企画

主な活動場所としては、学校が三三・五%と最も多く、次いで、町会・自治会の集会所二〇・六%、公園一〇・二%、団地の集会所八・八%、私宅七・八%となっている。

子ども会活動の悩みでは、活動を指導するリーダーがいないが四〇・七%、活動経費が少ない二九・五%、プログラムの作成に困っている一八・四%、活動する場所がない一七・七%で、物質的条件よりも人的条件では悩みが多い。

そのほか、地域や父母の協力がない九・六%、子どもが集まらない八・〇%、学校の協力が得られない四・〇%となっている。

リーダーが一～十人の団体ではリーダー活動を指導するリーダーがいないを悩みとしてあげるものが三七・九%あるのは当然として、十一～二十人のところではこの悩みは二五・四%であるのに、二十一人以上のところで三五・六%がこの悩みをあげているのは、単に数の問題でなく、質の問題に係わりがあることを示すものといえる。

次に、子ども会を指導するリーダーの問題。子ども会を指導する中・高校生リーダーは、三千九百九十五人で、リーダー一人当たりの会員数は、三十六・七人となっている。

リーダーがいる単位会でもその三一・三%は五人未満である。指導者組織はまだ形成されていないところが多い。

町会・自治会の下部組織では、指導者が未整備であるのに比べ、独立している組織団体では、比較的小規模の団体が多いにもかかわらず、指導者を整えている。

リーダー中、八三・九%が中学生で、高校生は一六・一%である。ジュニア・リーダーに比べて、シニア・リーダーの層は薄い。男子が五二・六%を占めていて、若干女子のリーダーが少ない。とくに高校生リーダーの女子の比率は四一・六%と少ない。

子どもの自治活動を推進するために、子ども自身の組織である子ども会と、それを指導する指導者の会、それらに側面的援助を行う育成者の会とが、まだ子どもの組織に大人が役員として入っている一方、育成者の組織がつくられていないところが多い。

町づくりに機関紙を活用
―三百号を発行するに当たって―

会長　駒井信義

昭和二十五年三月一日に第一号を発行して以来、本号で第三百号を迎えた。皆様のご努力で、ここまでこれたことをお礼申しあげたい。

はじめの頃は、欧米からの社会事業の技術を受け入れ、啓もうしていくという時期で、社会福祉理論も本質論争が活発に行われた。新聞の編集も、民主主義を貫くといった方針で、民間と行政とが一体となって、記事を書きまくったものである。

しかし、百号を越えたあたりから、市社協の暗黒時代に突入した。「一体社協とは、何をするところか」といった、社協の本質論が問い直され、この時期は機関紙も止まるというハメに落ち入ってしまった。

関係者の努力もあって、ようやく元の四ページだてで発行されるようになり、再度機関紙発行へと精を出していった。ブロック別研修会や校下ごとにもたれるボランティアスクールの報道が紙面をにぎわしたものである。

二百号では、岡村、賀集、籾川の三氏から激励の言葉をいただいた。そして、つかの間の三百号。

高度経済成長から減速経済への移行期。組織化活動をしつつも、在宅福祉サービスを中心とした直接サービスを提供する時期に、社協活動も到達している。

町づくりも、市内の校下社協を単位として、かなりの努力が続けられてきた結果、模範ともいえる校下社協も少なからず誕生し、活発な活動を展開している。

こうしたすぐれた活動をしている社協に学び、これに次いでいく校下社協がどんどん生まれてくるよう、大いに努力を払う所存である。

これからの時期にこそ、社協機関紙が、町づくりに果たす役割は大変大きなものがあるということを、三百号を発行するにあたっての言葉としたい。

児童福祉月間行事

昭和五十五年度の児童福祉月間は"どの子にも明るい未来としあわせを"の標語で、各種の行事が行われる。

主唱は、大阪市、大阪市社協。協賛は、大阪市民生委員連盟、大阪市児童福祉協会、大阪市母と子の共励会、大阪市児童収容施設連盟、大阪市母子施設連盟、大阪市里親会、大阪ボランティア協会、大阪府玩具人形問屋協同組合連合会、朝日新聞大阪厚生文化事業団、サンケイ新聞・大阪新聞厚生文化事業団。

〈実施事項〉▽5月1日～31日動く児童館（ちびっこ号）による遊びの指導…市内十七カ所児童遊園、ちびっこ広場巡回▽5月1日～31日家庭児童相談事業強化月間…一般市民を対象に、東・西・南・北区を除く二十二区家庭児童相談室で▽5月2日玩具の寄贈…大阪市役所玄関前で施設の子ども達に▽5月11日野外に親しむハイキング…養護・障害児施設の小学生高学年五百名が和泉葛城山ハイキングコースへ▽5月11日児童館野外レクリエーション…地域児童二百名が鶴見緑地で▽5月中旬幼児とボランティアのつどい…北摂地区および大阪市内北部の養護施設の幼児約九十名を対象に▽5月18日大阪市里親会レクリエーション…里親・里子約二百人が万国博記念公園、エキスポランドで▽5月下旬母と子のつどい…市内在住の母子家庭の母と子約千名がみさき公園で▽5月下旬母子寮母と子の制作展…七母子寮の母と子が南母子寮で絵画等の製作品を展示▽6月11日児童委員の施設見学および研修会…児童委員二百人が金剛コロニーで

高野山夏季福祉文化講座
7月10日～12日の三日間

朝日新聞大阪厚生文化事業団、大阪市、大阪市社会福祉協議会主催の高野山夏季福祉文化講座は、高野町中央公民館で、七月十日（木）～十二日（土）の三日間開催いたします。

区社協会長会

四月二十二日、区社協会長会が市立社会福祉会館で開催された。当日の議案は①五十五年度児童福祉月間運動②区・校下社協補助金③校下社協及び会長の名称統一④区社協の理事定数など。

食事サービス始める
丸山

阿倍野区丸山社協（安達友市会長）では、四月八日より食事サービスに取りくんでいる。

同社協では、以前からボランティア部会をつくり、寝たきり、一人暮らし老人の友愛訪問をつづけてきた。今回の取りくみで一層心の通いあう町づくりが期待されている。（二～三面に写真掲載）

これで、大阪市内で老人食事サービスを実施しているのは、住吉区墨江・山之内・清水丘地区、淀川区ミード社会館、大正区鶴町地区、城東区城東老人ホーム、阿倍野区丸山地区の七カ所。

←H◆B→

「母原病」という恐ろしい病気が日本中にまんえんしている▼症状としてはカゼをひきやすい子、ぜんそく児、甘えやグズの極端な子、自閉症様症状、登校拒否、家庭内暴力、自殺、殺人と多彩な症候群である▼母親の育児態度が原因の病気で、しかもその母親は育児について冷めたいか、熱心しすぎる人が多く、医師、心理学者や教師も原因がつかめなかったり、判明してもその対策がむずかしいという慢性難病である▼最近この表題で出版した愛知医大の久徳重盛教授によれば「日本の母親は二～三十年前までは世界でも一番育児が上手だった。統計的にみると、GNPの伸びと国道の舗装率と粉乳の生産高がまったく一緒で、それと反比例して子どもの数が減少し、育児が下手になった」と▼その原因として人間の個体維持と種族保存の二つの本能は脳の同一個所でやっている。文化が進んで親の生活が楽になると運動作用で無意識のうちに子育てが下手になる▼その現れの第一は子どもは少なくてよいと考える。第二は母乳がでなくなる。第三は子どもを育てる関心が狂う▼世の中が不便な時代には、それが当り前という価値観のため、育児がもつ本来の不便さが、むしろ一番尊くて価値のあることだと思っていたのが、文明化とともに便利で思い通りになるのが最高の価値観になり、一番思い通りにならないわが子にいらだちを感じる▼おとなしい子、手数のかからぬ子に育てようとする。このように育てられた子が自我の芽生えとともに、いろいろな症状をひきおこす▼同教授のクリニックで、母原病の指摘をうけた母親は、治る目標ができた、助かったという気持ちと、その半面親の育て方のせいで、という戸惑いと後悔の念で、また果たして自分で正しい育児ができるかという不安で、半ば呆然としてしまうという▼治療のコツは兄弟づきあいを多くすること。一人っ子でも近所の子どもを兄弟扱いにしてチームづくりをすること。正に地域福祉の問題でもある。（古閑）

在宅福祉をすすめよう

もっと長期展望をもって

出席者（順不同）
聖和女子大学教授　池川　清氏
府立金剛コロニー長　賀集　一氏
華頂短大講師　矢内　正一氏
府立城東老人ホーム長　松田　恵一氏
大阪市社協福祉部長　斉藤　恕氏
（司会）華頂短大教授　古閑　慶之氏

司会　本紙も三百号を迎えた。年十二回なので、ちょうど二十五年ということになるが、この間発行できなかった年もあり、事実昭和二十五年三月号が創刊。市社協の発足が昭和二十六年三月だから、その前身大阪市民援護事業団の時代で、大阪社会事業協会と大阪社会事業青年会との共同発行だった。

この「大阪の社会福祉」を育ててこられた皆さんに集ってもらっての座談会は意義が深いと思う。まず池川先生から。

池川　三百号までを追憶しながらも、将来を語っていく座談会にしたい。

過去の歴史では、大阪市の社協活動は、全国的に注目され、この機関紙もこれらの活動を報道してきた。全国の多くだされている機関紙のうちで、歴史もあり、自主性もあったということで高く評価されていたと思う。

市社協ができた当時から、私は市の内部にいた。市の内部から機関紙が市行政への批判があるなどの意見がでた時、上司の一人として、市社協が自由に活動できるようにするのが自分の役割ではないかと思い、社協のあるべき姿を考え、新聞に対してもそう臨んでいた。

矢内　毎月、どうも出ない時期があり、年間数回という時もあった。社協が下請けとか、看板とかいわれて萎縮した時ですねえ…。

池川　松田さんあたりは、外部から観察しておられたのでは…。

松田　私も、五年前までは編集委員に入れてもらっていた。今は、どうも転換期のようですね。三百号という声を聞くと、すごく早い感じがします。

司会　継続は力なりというが、ずっと継続してきたというのは、たいしたものですね。

矢内　自己満足みたいなものがあり、どれくらい読んでもらったかとなると、心配はあるのですが…。

司会　最近、社会福祉界はボランティア（以下V）ブームですが、このVに火をつけたのは、大阪市社協と朝日新聞大阪厚生文化事業団なのですね。その頃の思い出を池川先生から…。

池川　昭和二十三年ぐらいに、市社協の事業を朝日の事業団が応援し、二年間ぐらいした。今考えると、広く市民にV精神を植えつければ何かできるだろうと、根もない植え木を植えたことを私自身反省している。

ミード社会館のように、自分の施設のVをつくるんだというふうにもっていくのが良い。アメリカ的な社会福祉を取り入れ、イギリスの現実主義に根をはった場合、V活動は、施設ごとにつくっていくべきだと思う。

その当時、それが施設ごとに専属のグループができないものだから、やむを得ず、各施設へ個々のグループがでかけていって行うように転換していった。この時は、厚生省も注目していましたよ。

司会　やはり、時期尚早だったんでしょうかねえ…。あの頃は「Vとは何か」という言葉の解説から始めなければならなかった。しかも、対象を施設に置いた。方向としては間違っていなかったが、施設でもどうしてよいか受け入れがなかったということが、マイナスになりましたねえ…。

松田　確かに、施設の社会化というものがオープンになってきて、Vが生きるということを、自分が施設に勤務するようになりよくわかります。

時期尚早であっても、そういう種をまいてきて、花を咲かしてきたのも、ここで実ってきているのですね。

司会　そうですね。コーディネーターという言葉も最近使われているんですね。少くとも、大阪で全国にさきがけて強力なボランティア協会が生まれ育ってきたというのもそういう土壌があって始めてできたのですね。

池川　その当時、社協だけでしたのではなく、朝日がバックアップしたということが大きいと思いますね。その当時をふり返ってみると、Vの解説書がない時に、新聞社会事業が大きな役割を果たした。今後とも、新聞社会事業の協力を得ることは大切ではないかと思いますね。

賀集　三百号も続いてきたことは評価されていいと思うが、地域を対象にした機関紙なんだから、地域でどの程度よまれているのか、どんな影響を与えてきたかの反省が大切だ。母体の社協が確たる目標、方向性を持たずに、その日暮しでは、いい機関紙のできよう筈がない。啓もう的役割も必要だが、読む側が百も承知のことでは、お笑いだ。いまも編集委員会的なものがあるか、どうか知らないが、昔、いい仕事、いい新聞ができたのは、常に反省と、先ざきの企案、方針に助言があった。これはV運動にもいえることだが。

松田　共募というのは、ボランタリズムを一般化した運動と思うが、運動としてのVにならなかった。

池川　共募も歴史の中にVのことをあまり書いていない。ボランティア協会でも、そう書いていない。社会調査にしても、市社協が火つけ役でしたね。

司会　その頃は、社協だけが動いているのではなく、社協を中心にいろんな方が動いているといった感じですね。

矢内　松田さん、今、施設とVの関係はどうなんでしょうか。

松田　今のVは多様化してきましたね。府社協は施設サイドで進んできたが、市社協はいくらVをやっても施設とはつながりが薄いので、あまり進まなかったですね。

司会　今、市社協のVはどうなんですか。

斉藤　たくさんのVが地域や施設に参加していっている。V育成は、これからの市社協の大きな柱になってはいますが…。

松田　今まで、Vというのは地域性がなかったのですね。本来、自分の住んでいる地域でやらないとだめだ、ということが最近わかってきた。極端な場合は、隣りでおばあちゃんが寝たきりになっているのに、その人の所へ行ってするのではなく、どこか遠くへ行っている。

司会　Vとは何かということが、やっと市民にわかってきた。

しかし、日本の場合は、近くの人が来て、してもらうというのを好まない風潮がある。

斉藤　少しの抵抗はありますね。

矢内　そうですね。今まで、地域は拒否反応が強かったな。

松田　それがなくなれば、在宅福祉がもっとすすむのに…。

司会　コミュニティ・ケアの問題ですが、この五年間ぐらいで、施設中心よりも地域の方というのがクローズアップされてきた。市社協も早くからこの方に力を入れてきたのは先見の明というべきだと思いますが。

池川　市社協が、途中でセンターを運営したのは、これはこれとしての事業であったと思うが、方向を間違ってきたと思う。社会福祉事業団をつくって手離すべきではないのか。センターを運営して、社協の幹部がそれに時間をとられるのは、問題ではないのか。

司会　その点については、多少異論がある。市社協が運営している施設は、コミュニティセンターですね。行政の下請けではなく、市社協の運営方針を受けていくというようなものになれば…。

賀集　地域ケアとか何んとかいってるが、なんで民生委員を使わんかボクには分からん。これからの地域福祉の目玉が、老人問題をふくめて障害者問題だから、地域に密着したVとなれば、民生委員をおいて他にない。然も半数以上が婦人委員なんだから、これをVとして再教育して使わんテはない。昔と今の民生委員の違いを知ってるのは若い委員達だが、行政も社協も敬して遠ざけている形だ。

矢内　現状は、行政の延長みたいになっていますね。

斉藤　地域福祉センターということでつくられ、最初は区社協に委託ということで出発した。しかし、現在は行政サイドの運営になっている。

司会　民間の団体は財政的裏づけの点でもいろいろと問題はありますが、ほんとうに民間の社会福祉を進めようと思えば、市の社協が中心となって市民の総意を結集するというふうにならねばウソと思いますね。

池川　市民の便宜をはかることを常に考えなければ…。例えば今回府が発表したV基金だが、当然共募と重なる。それなら府が「共募をつぶして新しいものをつくるんだ」ということにするのか。

地域センターの活用を　古閑

社協活動にさおをさせ　池川

地域ケアは民生委員で　賀集

…ービスを始めた丸山社協（上下とも）

「大阪の社会福祉」も三百号を迎え、三百号記念座談会をもった。出席者は「大阪の社会福祉」を育ててこられた皆さん方。創刊号より編集にたずさわり、現在もHB担当の古閑、この欄担当の矢内の両氏。本紙への原稿執筆で…てこられた数が多く常に本紙へ助言…

ことばの解説

白亜館児童会議

ルーズベルト大統領によって「要救護児童の保護に関する会議」として一九〇九年に開催されて以来、約十年毎にもたれている児童福祉に関する総合的会議。「児童の世紀」を具体化をしようとするもので第一回会議の次の声明は有名です。

「家庭生活は、文明の所産のうち最も高い、最も美しいものである。児童に緊急なやむをえぬ理由がない限り家庭生活から引き離されてはならない」。

福祉はもとより、保健、教育、法務、宗教など幅広い関係者が参加し、児童福祉の理念や具体的施策などについて協議し、大統領に勧告するもので、アメリカはいうまでもなく世界各国に影響を与えています。（實）

ボランティアはなく、全て公的施策で

老後の生きがいが課題に

スウェーデンの老人福祉を視察して（下）

森と湖の国、社会福祉の進んでいる国、税金の高い国、いろんなイメージを持っている国、スウェーデンへ行く。人口八百二十万人。大阪府の人口よりも少ない。

社会政策は、援助、予防の段階を通り越して、国民全体の所得の平等を目標に進んでいる。

老人も普通の人と同じ生活ができるように、老人アパートや老人ホテル（老人用サービスハウス）がつくられている。

老人アパートは一般住宅の中にあり、五十戸から七十五戸のアパートが多い。

老人ホテルは個室と共同施設からなり、職員も多くサービスが行き届いているアパートである。この住宅は老人にも人気があり、現在もなお増設中である。個室は一DKから三DKの広さがあり、台所、トイレ、風呂またはシャワー付で、家具は持ち込みになっている。炊事器具はタイマー付の電熱器を使用。これだと火の始末が安全である。

共同施設は手芸、織物、彫金、木工などのクラブ室や体操室、図書室、談話室、診療室、風呂、食堂、ホールなどがある。共同施設は地域の老人も自由に利用できる。これはイギリスでみたデイ・センターと同じような施設である。

老人の安否の確認は、老人からの呼び出しランプと自動ランプの二つで行っている。自動ランプがちょっと変わっていて、老人の部屋で二十四時間トイレの排水がない場合、自動的に事務所のランプが付くようになっている。

ホームヘルパーは七万五千人。老人の三十万人がヘルパーを受けている。パートが大部分だから半分に見積っても相当な数字である。ちなみに我が国のヘルパー数は全国で約一万三千人である。

スウェーデンにはボランティア活動がない。イギリスと対称的だ。社会福祉はすべて公的施策で行うのが基本になっている。

スウェーデンにも悩みはある。六十五歳で定年退職した人は、することがない。毎日が日曜はつまらない。定年後をどう生きるか。生きがいをつくるために、仕事やボランティア活動を検討しているということであった。

（市社協福祉課・竹本美子）

…込んだ老人ホテル（老人用サービスハウス）の豪華な個室

地域のV（ボランティア）を育成し、在

300号記念座談会

福祉経済を発表しないと

展望もって在宅福祉を　松田

主婦の間からニードを　矢内

校下社協での具体化を　斉藤

地域や施設で発行する広報紙

食事サ

…の両氏。本紙への原稿執筆で[illegible]数が多く常に本紙へ助言をしてこられた池川、賀集の両氏。数年前まで編集委員をされた松田氏。最近の社協をめぐる動きから、今後のあり方を話していただいた（なお、賀集氏は紙上参加をしていただいた）。

↘、ところがそうでもないらしい。とすると府民にすれば、どちらの方がよいかということで混乱だけが増えるということになるんですね。

斉藤　これは日本的性格なんでしょうかねえ…。抜本的に見直して、共募でも何か新しい在り方を考えてみたら…。

松田　抜本的とかなんとか言うが、これをしなかったから、共募も三十年間つづいてきたのですよ（笑）。

池川　でも、世界に、同じ募金を三十年間しているところはないよ。

斉藤　募金一つにしても、常時性というようなものがもてないのでしょうかねえ…。

松田　「どうしてお金がいるのか」という計画性が、もっと明確

にならないと、うまくいかないのでは…。

池川　そうでしょうな。最近では保育所に寄付する人も少なくなった。「脱税するくらい金がある」という人もいる。そういう印象を持たれるとよくないので、福祉経済というものを発表せないかん。それを、誰がやるかということですよ。

松田　老人ホームを一つ建設するにしてももっと世間が納得するような、必要性というものを打ち出していかないと…。

池川　府社協の新聞にV基金のことが書いてあったが、次の号でいろんな立場の人がディスカッションしたものがほしいですね。

これは市の方でも…。

司会　金さえあれば福祉はできると考えられているが「ほんとうに必要なのは人間だ」ということがまるでわかっていない。地域でほんとうに働く人の研修というものができていない。研修センターというものができるそうだが、どういうセンターにするのかが問題ですね。

池川　府社協も、あれを作って、えらいものを作ったなあと思っているのじゃないか。

松田　Vのことで、もっと大事なのは、Vの世話をするコーディネーターには金をつぎこもうとしないことですね。そういう専門家がなくては駄目だと思うが…。

司会　市社協の方で、地区社協の専任職員はどうなっているのですか。

斉藤　中心になっているのは区の職員で、区に一人専任職員がいる。また区役所の仕事の中で動いているのが実情ですね。コミュニティセンターが地域の中心になっていくという目標は持っているのですが…。

松田　センターには、専門職でない人が多いのでは…。

矢内　それに、地域の老人の参加もないのでは…。

斉藤　そうでもないのだが…。住吉区では老人クラブが参加して成功したということもある。

矢内　センターと老人クラブがうまくいっていないところが多いのでは…。

斉藤　その傾向はありますね。

司会　現場の責任者の考え一つで運営が違っている。それが自主的な信念とした指導方針ならよいのだが、行き当たりばったりとなると、現任訓練が必要なんですね。

斉藤　現任訓練は大事ですね。

賀集　Vや関係者の育成も、大海に網をうつようなことでなしに、目標をハッキリ示して、将来、専門職にまで高める必要があるのではないか。この新聞も、何んでも載せる式だから、焦点のボヤけたものになる。毎号特集といかなくても、今月号はこれだと示すこと。希望をいえば編集者の言葉がほしい。

司会　最近の「大阪の社会福祉」を見ていると「モデル地区のページ」などもあり、より機関紙的になってきた。しかし、市社協でも、会合は多くしているはずだが、その内容があまりでてこない。すばらしい会合もあると思うのだが…。市社協とは何をするところか、わからないという人がたくさんいる。どんなテーマを取りあげるにしても市社協との関連をもたせて…。例えば二百九十九号に"地域文庫"というものがあるが、地域の社協がこの文庫にどういう関心をもっているかという具合に…。

矢内　社協との関連ですね。それができれば、Vのコーディネーターの方も伸びますよ。

斉藤　港区の概要などでは、文庫と社協とは強いつながりをもっています。

池川　話は違うが、この新聞の発行部数は。

斉藤　一回につき七千五百部。

池川　将来、どう配布するのかということを検討しないといけませんな。

斉藤　今、区役所にはてい送で送れるが、他の所はそうはいかない。購読料を払っても読みたい人がふえればすばらしいのだが。

池川　大都市では、金を集めるのはむつかしいですね。住民が会員になるということも。

松田　民生委員には、全部いっているのですか。

斉藤　そうとも限っていません。

松田　「市政だより」は毎月きますね。校下社協の役員ぐらいは会員になって、会費を出して、その代償として新聞をもらうということにならないと…。

全員　それはよいことですね。

司会　話しを進めますが、社協活動をふり返ってみて、何が重点目標かを決めて実施した時、社協活動というのは生き生きしている。例えば、V、子どもの遊び場、校庭開放など…。この五年間に社協の重点事業は…。

斉藤　福祉の町づくりとしての校下社協の育成と在宅福祉サービスの推進ですね。最近は…。

司会　今後、より具体的な重点目標を置くということが大事なのでは…。以前は助言委員会でよく討議をしたものだが。

松田　基本構想委員会というのもありましたね。

矢内　印刷まではしたのです

が、それも言いっぱなしで。

司会　そういう難しいものも結構だが、実際に何をすべきかというものを全市的な流れのなかで…。

司会　コミュニティーセンターの話がでたがホームヘルパーの点ではどうでしょうか。

池川　人間がする仕事なので、V的な精神がなければ…。人間対人間の仕事は科学的に調査する方法がない。書かれていないが、やらないけないこともある。相手のニードに応じた仕事をやらないと、ホームヘルパーは生きていらないということになる。

司会　センターは、市社協の直轄ですか。

斉藤　そうです。そして、ヘルパーの仕事は、今は老人センターで行っています。

松田　先程、施設のことが話しにでた。福祉事務所というのは大きな力を持っているが老人の施設入所の判定に科学的なものがないですね。

池川　"さ[illegible]をさす"ということ。方向性をもつことですね。この五年間を見ているとどこに行くのか、どっちを向いているのかということがわからない。

例えば、コミュニティーセンターがたくさんできたが、市長がこれに対してどうするのか一つの哲学をもってほしいですね。

松田　地域福祉というものを、五～六年間してきているが、未だにモデル地区ですよ。給食サービスでも、こんなことをしていていいのかなあと思う。モデルではなく、一般に広げるという時にきているのではないか。

司会　常に短期展望というか思い付きだけで行政がおこなわれているということだが、やはり市民の福祉の将来はこうあるべきだという長期展望が欠けているところに最大の問題がある。

斉藤　地域へ行くと、また社協への認識も薄いところがあり、モデルというのは必要ですね。給食の点では、いつまでもモデルだけではなく二年間で各区に広げる方向で進めています。

松田　給食の点で、府は長期の計画はないという。そういうことでは、最前線でやるものはたまったものではない。「これからどうするのか」といいたいですね。

司会　そういう問題は、狭い意味での福祉の問題としてとらえるよりも、むしろ、市民運動として展開する必要があると思う。市民側からの要求を強く打ち出すことが必要になってくる。

松田　社会調査で、どういうニードがあるのかということがつかめていない。入浴サービスでも、ドッときたら大変ですよ。今は、線香花火的に、ポッポッとやるだけで…。

矢内　一人を風呂に入れるだけでも金がいるね。

池川　そういうことを、福祉経済か何かで発表しないと…。最近の福祉電話でも行政側のサービスとして行えば一人につき多額の予算が必要だ。

司会　一方において足らないものがあり、一方において過剰サービスになっている。受益者負担も考えに入れ、基本的に公平でないといけないのだが。

矢内　老人ホームに慰問にきた人に、聞いてあげるのがVという収容老人もいる。聞いてあげんとあいそがないと。

斉藤　かって、片山弘済院長が「施設処遇も在宅保護の状況を念頭においてといっていた」が…。

住民のニードをよくつかんで

予算の使い方に工夫を

各種団体に間口を広げて

池川　今、在宅福祉を進めるのはいいテーマだと思うが、今の民生局は全国に先がけてやろうという意欲がない。ぼくは、大阪の社会事業は、日本の社会事業のメッカだと思っている。自分だけの力ではいかないので、社協を活用することも考えては…。今後、大阪の社会事業を動かしていくのも、この紙面を通じてやっていく。社協自身にもファイトがほしい。

司会　その基準だが、厳密なものが果たしてできるものだろうか。

松田　それができないと…。特養などを回っていて、こんな元気な人が入っているといってビックリするんですよねえ…。

池川　いろいろと対策のおくれた話しがでているが、こういう時こそ、もっと思いきってやった方が…。大阪市の社協だから、今こそ、大阪市は、市長が社協に方向を示してもいい時期にきているのでは…。市社協も、在宅福祉やVをどうしていくかを、いまの若い方が助言委員会で遠慮なしに話しをするということを期待しますね。

司会　今の社協を見ていると、市の意向を勝手に想像しての自主規制が強いように思う。認められた予算は同じでも、その使い方はいろいろと工夫すれば別のやり方もあると思うんですね。市社協にこそ、それができるのでは…。

例えば、来年の国際年をひかえて障害者問題がいわれているが、市社協は前に障害者のことは取りあげていないのでは…。

斉藤　常務も、そのことは常に気にしている。地域で実際にどういう形で取りくんでいくのか、諸サービスの対応もあるので…。何か取りあげ方を助言していただければ…。

司会　社協は協議団体の中心なのだが、障害者団体だけでなく、もっと各種団体に間口を広げるということも考えなくてはと思う。

矢内　八〇年代の展望を見すえてね。

池川　婦人年は、やいやい行われたが、児童年は知らぬ間に終わってしまった。

斉藤　結果として市社協は、高野山夏季福祉文化講座と地域福祉研究集会の取り組みしかできなかった。今の未熟親などのこと考えると、児童問題を重点的に取りあげていかなければ…。

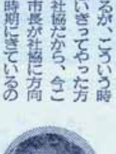
司会　社協あたりでは、地域での母親教室などを…。

池川　そういうものを―。昭和二十八年から三十年にかけて、社協が立ちあがったヒロポン追放運動は有名ですね。これは共同の関心が燃えたのですね。

司会　やっぱり、市社協は住民のニードの現れとしてのアップ・トゥ・デイトなものも取りあげていかないと…。

池川　社協は、地域社会の核なので、やろうと思えば役所にできないことができるよ。

斉藤　あの頃は、青少年の愛の



善導でも活発でしたね。

池川　活発にしなければいけない。もっと社協が。

司会　そのためには、市の内部にも応援するという体制がないといけないでしょうね。

矢内　以前は、やれば金はなんとかなるというのがあった。これからの仕事としても、もっと地域に出て行って、主婦の間からニードをひっぱりだしてこんと駄目ですね。

松田　いつまでも、モデルといっていないで、何かを打ち出していかなくては…。何か試行錯誤ですまないような所にきているのでは。

斉藤　確かに、モデル地区だけが対象ではないと思う。

池川　これからの五年間に、ぜひとも社会福祉事業団をつくり、センターの運営に手をとられることを少くし、もっと地域の組織づくりを追求すべきだね。本質論を大切にせないかんと思う。

司会　いままでの反省と、これからの課題がでたように思います。今日は、どうもありがとうございました。

家具を

行政機構の整備など
児童行政三十年の宿題

社会福祉関係の大会は、全国・府・市の三段階で毎年開催されている。これは、世界各国とも民主主義を重んじる国は大会好きであるから共通した現象といえる。

大会が開催された時、議案を十分に準備して配布されている時は参加者も関心のある部会を予め決定して、心の準備をして出席できるが、大会の当日になって急に思いついて提案したりする名士（？）もいる。

私は、昭和二十二年に、終戦後の第一回全国社会事業大会の第二部会に出席して、児童保護関係の議案を整理したことがある。この当時に何が問題であったか、その後の発展のあとを振り返ってみると、何が解決していないかがわかる。

議案六十件につき、分類してみると次の通りである。（）内は提出した府県の数。

I解決したもの…㋑栄養品物資の補給（二十九）㋺クスリの補給・ムシ下し薬の配給（五）㋩助産施設の増設（五）

II不十分なもの…㋑児童厚生施設（児童会館、運動場、動・植物園、公園、映画館）の増設（十二）㋺不良児、浮浪児保護の拡充（一〇）㋩母子の健康増進＝母体の休養と健康保持（七）㊁児童文化資材の向上（七）㋭国庫補助（六）㋬児童福祉法（六）㋣託児所の増設（五）㋠児童関係の助成＝母子愛育会の助成（三）㋷児童相談所の拡充（三）㋦従事員の待遇・向上（三）㋸母子寮の増設（二）

III未着手のもの…㋑行政機構の整備＝厚生省・文部省の問題（七）㋺児童委員（三）㋩母性教育（二）

今、これを読みかえしてみると社会事業施設についてはほとんど解決している。栄養品、物資などは過剰気味で、米は倉庫にダブついている。

一番大きな行政機構の整備、一元化、すなわち保育所行政の厚生省、文部省の歩みよりは全く希望から遠のいていることが分かる。

もう一つ残っているのは児童相談所の拡充である。児相は三十年間を顧みて進歩したのか後退したのか分からない程、時代の流れのテンポからは遅々とした歩みである。

さしずめ、この当時の宿題で今の日本の社会事業にもひきつづいた宿題は幼保一元化と児相の拡充ということであろう。

いずれも児童家庭局（厚生省）のかかえている問題である。どうも、ここの局長になる人が長くその職責を勤めていないのが原因ではないか。有能な局長がいたことも思い出されるが、どの人も短期在勤でみっちりと行政をやれないで、転出していった。

黒木局長なども有能な官僚であった。今は亡き役のことを思い出すと実に友情と真実にあふれていた人柄である。また、太宰局長も学者ではなかったが、行動性のもてる熱心な局長であった。ぜひとも、現在の児童家庭局長は三十年来の宿題のうち、一つでも解決してから栄転してほしい。

（昭和女子大学教授・池川清）

異動

四月十一日付けの大阪市人事異動で次の方々がかわられた〈社協関係者のみ掲載、敬称略・（）内は旧職〉。

▽民生局福祉部保護課長（保育部企画課長）久保忠明▽同児童家庭課長（環境保健局管理部病院課長）渡辺勝▽同障害福祉課長（福祉部保護課長）坂田和夫▽中央児童相談所主幹（中央児童相談所措置係長）竹沢寛心▽保育部企画課長（総務部保険年金課長）角野知義▽同運営第二課長（同児童家庭課長）佐伯利夫

市の異動に関連して、市社協でも事業部長、管理課長の異動が発令された。

▽事業部長新任・中島弘和（東区役所勤務）▽島屋芳太郎氏は更生相談所主幹として退任

▽管理課長新任・米田敏美（弘済院給食係長）▽藤野勇三氏は保育部運営一課主査として退任

旭区V連絡協誕生
結成総会に七グループが

四月二日、旭区ボランティア連絡協議会結成総会が開催され、市内で六番目のV連絡協が誕生した。

結成総会には七つのVグループの代表者が参加し、会則を制定、役員を選出した。会長には高殿苑で活動している十友会の小島鶴子氏が就任。

昨年の区社協総会でV連絡協を結成することを確認、その後、区内の福祉施設、団体への調査の結果十五グループを把握。十二グループの賛同を得て、結成準備をすすめてきた。

食事サービスをテーマに
＝鶴見区Vスクール＝

鶴見区社協では三月二十八日から毎週金曜日、全四回の日程で、第三回鶴見区ボランティア・スクールを行った。

このスクールは老人食事サービスの集中講座で、プログラムには保健所の栄養士の指導で老人食をみんなで作る実習や、大正区鶴町での活動を見学するなど実践的な内容。最終回の座談会では、調理の内容や利用料のことなど多くの受講生から活発な質問が出された。

人 (101)

参加する福祉へ
社会福祉一筋に六十一年

「南区というところは面白い土地柄。古い事業、新しい事業が、いまでも息づいてる。活動も何かの節（ふし）ごとに伸びてます。新しいものを加味して。それが社協というもんでしょう」という。

もちろん、他の団体も活動はしているけれども「地域の声を聞いてから腰を上げるようじゃ遅いわけよ、ねえ。役員が地域に密着しておれば嗅覚が働く。ニードの先取りをせんことには……。まあ、この辺が社協の真骨頂。こんごは地域全体に利益をもたらすため、与えられた福祉から、参加する福祉へということだろうな」

「総会決定事項については役員全体がやらねばならん、自分の会だと思うて。この意識が欠けてはしないだろうか。毎日の務めが要るわけよ」ときびしくいえるところに実践で鍛えられた西明哲学がある。いろいろとアドバイスもあるようだが「実行性の薄いものが多いのは残念。役員というのは体力と実行力を持たんとダメ」だと言い切る。「柱に頭突（ずつき）をもっていくだけの気迫がのうては名誉職か請負業か、分からなくなる」

この人の公職歴はまず、大正八年の青年団長を振り出しに、民生委員、社協と社会福祉一筋の六十一年ともなれば区内のあらゆる面に足跡をしるしている。元気は抜群。「われながら、ようやってきたとしみじみと振り返ることがあります よ」という通り社明運動、松屋町筋修劇を契機にタウン・ペアレント運動、校庭開放などがルーツとなって、いまも活動が伸びている。

こうした活動を支えて来られたのは五十年八月に亡くなられた奥さん。お葬式も告別式といわず送別式。

「きょうは旅立ちの日だから見送って下さい。決して永久にお別れするのやない」と激烈たる奥さんへの愛情を素直に見せられた。

人口減による小学校の統廃合問題、国立文楽劇場の建設など区民生活と接触が多いだけに教育、文化、福祉施設を悔いなきものにしたいという。（矢）

大阪市社会福祉協議会
副会長
西明　半蔵

献血に二百人が協力
＝東住吉区今川社協＝

今川社協は四月十三日、今川小学校で献血を実施した。昨年十月に第一回目を行い、今回は二回目の取り組み。小雨の中を二百二十六名が参加し、百七十五名が採血した。昨年は二百六名の参加で百四十二名が採血している。

献血手帳は個人で保管しているが、地域で血液の要望があれば、献血者に呼びかけていくことにしている。

奉仕銀行
4月分

預託

〈金品〉▽百十三万五千七百七十円河内建設興業所（指定）▽手造りコーナーを設け特色あるバザーにしたいと、半年間取り組みその売上金二十八万六百六十九円大阪市立婦人会館友の会▽二千円浪速区川端ミツ子さん▽赤ちゃんの衣類・毛布等都島区の寺本チヨミさん

払出

〈金品〉▽家庭養護促進協会（指定の百十三万五千七百七十円）▽盲導犬の普及と理解を深め障害者とのふれあいの場をもちながら大阪の文化と街づくりにとりくむため、大阪「中之島まつり」への参加のために「ブルーカナリア」に九万五千円▽家庭養護促進協会へベビー衣類を

〈技術〉▽桜東勇さんによる中国針・灸の奉仕を延五人の方々に。

わが町 (49)
住吉区長居社協

長居青少年育成協を母体に
盛り上がる子供の文化活動
境内にある〝老人憩の家〟に人気

長脇駒治郎会長

神社の境内に作られた老人憩の家

3年前から行われている「敬老のつどい」

長居地域は、国鉄阪和線と地下鉄の「長居」駅を中心に発展した町で、長居公園に隣接している。江戸時代の寺岡、堀、前堀の三つの村が明治になって一つとなり長居村と呼ばれた。寺岡は花つくりの地として栄え、それが戦後まで続いた。

昭和の初め、阪和線が開通した頃から住宅や商店が増え始めた。昭和三十五年に地下鉄長居駅ができてから交通の便が良くなる。アパートやマンションその他の住宅が建ち並び、すっかり住宅地に変わってしまった。今では地下鉄が長居地区の玄関口になっている。

長居の呼称は、古くから長居の里や長居の浦と呼ばれたことによる。風光明媚で「長居の(できる)土地」という言い伝えもある。

長居には会館・集会所が二カ所、老人憩の家が二カ所ある。老人憩の家は両方とも北の方にあり、東側の人が利用しにくい。神社の中にある老人憩の家は、週六日開放され、二十人くらいの人が毎日利用している。

敬老会は三年前から行われている。主催は長居地域各種団体連絡協議会。この団体は敬老会を開催するためにだけあり、役員も決めていない。

府営住宅内に「地域文庫」

長居地域には公営住宅が多い。七年前、府営住宅内に子どもの図書を貸し出す「長居文庫」が生まれた。家庭文庫から地域文庫へ発展したものである。大阪市内では数少ない地域文庫のひとつである。子どもたちが最近本離れしている中で、なんとかして本好きな子どもに育てようと努力している。現在登録者数は千三十八名、蔵書数は四千二百冊である。いま「住吉区に図書館を」と署名運動に取り組んでいる。

これとは別に、長居地域に図書館を持ちたいという話もある。長居の郷土史を編さんした先生が自分の蔵書を全部寄贈したいと言われている。図書を置く場所ができれば、長居図書館をつくりたいというのが長脇会長の夢である。

長居地域には、青少年の健全な育成を援助する団体として、長居青少年育成協議会がある。この協議会にも各種団体が入っている。援助しているグループは、連合子ども会、すみよし少年少女合唱団、長居文庫、野球部の四つ。その他協議会でも独自に盆踊りやクリスマス、もちつき大会などを催している。協議会の中心メンバーはPTAのOBたち。長居小学校のPTA活動もなかなか活発で、昭和四十五年に優秀PTAとして文部大臣賞を受けている。

昭和三十四、五年ころ、我孫子中学校の生徒が殺されるという事件が二件続いて起きた。それを契機にして長居校外指導協議会ができた。それが発展して四十六年に青少年育成協議会に名称変更したものである。最初は賛助会費を集めて収入にしていたが、今では町会からの助成金と寄付金でまかなっている。

子ども会は四十八年にできた。長居全体の連合子ども会である。その育成もPTAが中心になってがんばっている。いま町会ごとに子ども会をつくろうと準備を進めている。

本年度からモデル地区に

長居社協は四十二年に設立したが、まだ組織がかたまっていない。社協の自主財源がないので活動しにくいという悩みがある。五十五年度から市社協指定のモデル地区になる。これからの活動が期待されるところである。

地域の概況

〈人口〉　28,055人
〈世帯数〉　11,034世帯
〈面積〉　1.07㎢
〈施設〉　保育所1、幼稚園2　小学校1　高校1　会館2　老人憩の家2　地域文庫1